

クサカリツボダイ 天皇海山海域

North Pacific Armorhead, *Pseudopentaceros wheeleri*



クサカリツボダイ（左は体高が高い着底直前の未成魚、上は着底後2年以上経過した体高が低い成魚）

管理・関係機関

北太平洋公海漁業資源の保存及び管理に関する条約(未発効)
北太平洋漁業委員会 (NPFC、設立準備中)

利用・用途

冷凍ドレスを干物、みそ漬けなどに加工。

最近一年間の動き

近年の天皇海山海域におけるクサカリツボダイの全漁獲量は年変動が大きく、加入が少ない年は年間1,000トン前後にとどまるが、2012年には1976年以来36年振りに2万トンを超える漁獲量を記録した。2004年以降卓越加入の発生頻度が増しているが、2013年は加入が悪く漁獲量は3,000トンに達しない見込みである。現行の暫定・自主管理措置下での努力量制限、漁期・漁場制限に加えて、産卵親魚を確保し漁獲を安定化させるために漁獲量規制の導入が検討されている。

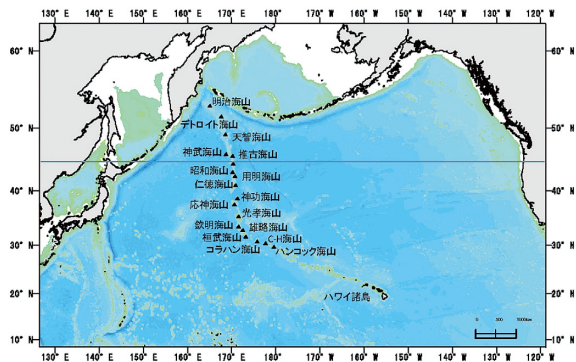
漁業の特徴

天皇海山海域において操業を行っている我が国の着底底びき網漁業及び底刺し網漁業の主対象魚種がクサカリツボダイであり、その他にキンメダイ、オオメマトウダイなどが漁獲されている。底びき網漁船は水深300～500mの平頂海山の頂上部で操業し、底刺し網漁船は海山斜面域や水深が深い海山で操業を行っている。

- 生物学的特性**
- 寿命：8歳
 - 成熟開始年齢：2歳
 - 産卵期・産卵場：11～2月・天皇海山海域の水深300～500m水域
 - 索餌場：北太平洋東部の表層域（未成魚）、天皇海山の水深300～500m水域（成魚）
 - 食性：カイアシ類や尾索類など（未成魚）、甲殻類、翼足類、尾索類、魚類など（成魚）
 - 捕食者：調査中

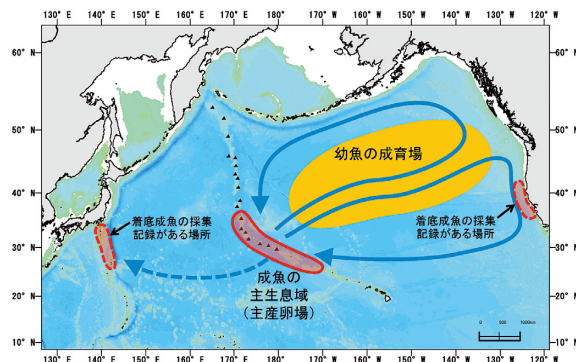
漁業資源の動向

1967年に旧ソ連が天皇海山漁場を開発し、我が国は1969年から底びき網漁業を行っている。我が国の漁獲量は1976年までの間は1～3万トンの高い水準を維持したが、1978年以降急激に減少した。その後は1,000トン前後の低い漁獲量で推移したが、1992～1993年と2004年、2010年、2012年には漁獲量が一時的に急増し、卓越年級群が加入したと考えられている。



天皇海山海域の主要海山群

(現在北緯45度以北及びC-H海山は操業禁止となっており、ハンコック海山より南東は米国EEZ内にある)



クサカリツボダイの産卵場及び回遊経路の模式図

資源状態

1970 年代前半の開発当初に比べ、その後の漁獲量は低く、数年から 10 数年に一度現れる卓越年級がない年は、千トン前後の漁獲量にとどまっていたことから、初期状態と比べると、資源量は低いレベルにある。特に 1993 年から 2003 年までの 10 年間は、卓越加入が現れず、非常に低いレベルにあった。しかし近年の漁獲量をみると、2004 年、2010 年、2012 年に卓越加入が発生しており、依然として年変動は大きい。1990 年代に比べると資源は上昇傾向にあると判断される。

資源評価まとめ

- 資源は低位水準。
- 卓越年級群の発生の有無による変動が大きい。

資源管理方策まとめ

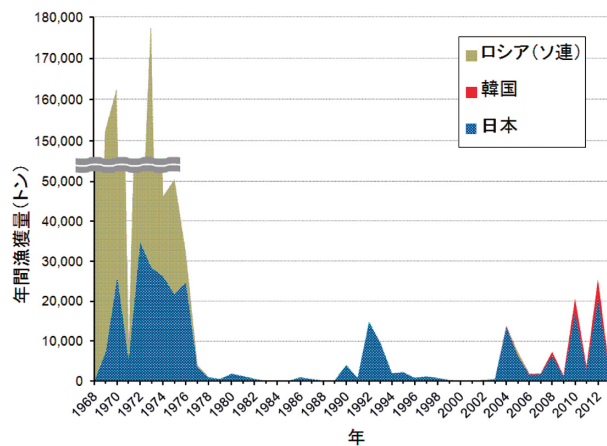
- 最大漁獲努力量（底びき網年間総作業時間 5,600 時間以下）の設定、産卵時期である 11、12 月の禁漁。
- C-H 海山を暫定的操業禁止海域に設定。
- 操業許可漁船数の現状維持。

管理方策

クサカリツボダイは、その生物学的特性によって、コホート解析や余剰生産モデルを用いた資源解析を行うことが困難である。そこで、同様に漁獲されるキンメダイの資源解析結果に基づき、クサカリツボダイの産卵親魚の確保と卓越年級の発生を促進する効果が期待できるよう、1997～2006 年の平均漁獲努力量の 20% を削減するとともに、本種の産卵時期に当たる 11～12 月が努力量の削減時期（禁漁期）となっている。さらに C-H 海山における操業禁止や、漁船数の現状凍結などの暫定・自主管理措置も導入されている。

クサカリツボダイ（天皇海山海域）の資源の現況（要約表）

資源水準	低 位
資源動向	卓越加入の有無による年変動が大きい 卓越加入の発生頻度は近年増加している
世界の漁獲量 (2011 年までの 5 年間)	1,259～25,355 トン 平均：11,550 トン
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	1,085～20,867 トン 平均：9,653 トン



天皇海山海域におけるクサカリツボダイ国別漁獲量の経年変化